

100%市民派・中川健作の

# 市議会かわらばん

2010年4月  
(第78号)

(連絡先)  
米子市政研究会  
米子市内町 53  
TEL(0859)33-6475  
FAX(0859)23-0268

ご意見をお寄せ下さい

(ホームページ) <http://www2.sanmedia.or.jp/nakagawa/> (メールアドレス) [nakagawa@sanmedia.or.jp](mailto:nakagawa@sanmedia.or.jp)

## 100%市民派

いのち・人権・環境・平和が尊重される政治を実現するために、これからも“市民派”として、市民のみなさんといっしょに議会内外で活動していきます。



## 3月 議会報告

今任期最後の定例市議会が、2月25日から3月25日まで開催されました。流通業務団地の赤字解消、公会堂改修、図書館・美術館の増改築、東山運動公園競技場の改修など、米子市財政にとって重要な課題が一気に出てきました。厳しい財政状況だからこそ、どこにお金を使うのかを市民が決めるやり方が求められています。

### 市民が求めたときは住民投票を実施する制度を

いま、米子市では市民自治基本条例の策定作業が進められています。3月議会でも、自治基本条例の中に「常設型住民投票制度」を盛り込むことを求めました。

現在でも地方自治法により、有権者の50分の1以上の署名で条例制定を直接請求する制度がありますが、議会の議決が必要なので、住民と議会・首長の意見が対立する場合があります。旧若桜町では、合併

の賛否は住民投票で決めて欲しいという有権者の6割の署名による請求を議会が否決しました。旧淀江町でも、アンケートで住民投票が必要と回答した住民が約7割あったのに、議会は住民投票条例を否決しています。

一方、一定数以上の住民の請求があつた場合は、議会の議決を経ずに住民投票を実施するというのが、「常設型住民投票制度」といわれるものです。全国で30以上の自治体で制定されています。お隣の日吉津村でも、永住外国人を含む18歳以上の住民の4分の1以上の請求があれば住民投票を実施するという制度をつくっています。

市民の意見を2分するような重要な問題について、市長と議会だけで決めれば、市民の間にも不満が残ります。市民間で意見を交わし、最終的には市民自ら投票で決めるといふ制度があれば、市民自治は1歩も2歩も進むでしょう。「常設型住民投票制度」は、これからの市民自治制度にとって、なくてはならないものです。



「市議会かわらばん」は、中川健作(無所属市民派)の議会報告です。年4回、定例市議会終了後に発行しています。毎号ご希望の方には郵送していますので、ご連絡下さい。また、内容についてのご意見、市政への提言等お寄せ下さい。出前市政報告会も行っています。少人数でもお申し込み下さい。

## 流通業務団地の膨大な赤字 事業を認めた議会の責任は重い

流通業務団地は、「米子インターチェンジ入口に物流拠点を整備し経済の活性化を図る」などの目的で、平成9年から事業が進められてきました。バブルが終わる頃の計画であり、土地が売れずに「第2の崎津工業団地になるのではないかと心配されていましたが、「売売できる」という当局の説明に対して、結局は議会も賛成してしまいました。

心配したとおり、約8億円の総事業費は、売却が進まないために借入金金利子などが増加し、約92億円にまで膨れ上がってしまいました。一方で、現在まで販売収入などの総額は約52億円で、残区画(約26億円)を売売したとしても約14億円の赤字になります。

財政健全化法に基づき流通業務団地の経営健全化計画がつけられ、3月議会に提案されました。平成22～25年度まで毎年1億円を一般会計から繰り入れ、平成25年度に約31億円を借金して赤字を解消し、その間に土地の売却に努めるというものです。借金は20年返済なので、元利を毎年約2億円払い続けなければなりません。土地が売れなければ、これも一般会計から持ち出すこととなります。

議会のチェック機能が働いていれば、このような見込みのない事業はストップできていました。二元代表制の役割を果たすためには、時には当局提案を否決するような議会でなければなりません。

## 何とか存続させたい公会堂

米子市公会堂は、昭和33年に事業費2億1千万円で建設され、市民が1円募金で3千万円も寄付金を集めたそうです。設計は広島平和記念聖堂等も手がけた建築家の故村野藤吾氏で、グラントピアノをイメージした建物は国の「公共建築百選」に選定されました。また、大ホールは収容者数が約千人で、使い勝手のよい中ホールとして稼働率が高く、年間約10万人の人が利用しています。音響機能がよく、音楽関係者から特に高く評価されています。

しかし、築後50年経過して施設・設備の老朽化が進み、公会堂の改修は昨年の市長選挙でも争点になりました。野坂市長は、「早急に耐震診断を実施し、施設整備の充実を図ります」と公約しました。

その耐震診断の概要が議会最終日に示され、大規模地震で倒壊の危険性が高いとのこととです。耐震改修する場合の費用試算は、耐震改修費が約7億2千万円、設備改修費が約5億8千万円です。今後の対応については、大ホールは使用を停止し、公会堂の存廃を含めて慎重に検討したいとのことでした。

公会堂は中規模ホールとして必要な施設であり、建築物の文化財的価値からも何とか残したいものです。公会堂を今後どうするか市長や議会だけで判断するのではなく、情報を公開し、最終的には市民投票で決めることも考える必要があります。



## 東山運動公園競技場改修の緊急性はあるのか

3月議会で、東山運動公園競技場をJリーグ規格に沿った競技場として整備することを求める陳情が委員会で趣旨採択になり、私が代表して継続審査を求める動議を提出しましたが、僅差で否決されました。

子どもたちに米子市でJリーグの試合を見せたいという意見もありますが、米子市では財政難を理由に、生活困窮家庭の子どもの給食費補助費や学用品補助費さえ減額されている状況で

す。また、小・中学校の雨漏りなども財政難を理由に対応できていません。こちらを優先すべきでしょう。鳥取市にはJリーグ規格に沿ったサッカー場があり、1時間もあれば応援に行けます。年に数回の試合のため20億円もかけて米子市に同じようなサッカー場をつくる緊急性があるとは思えません。動議が否決されたので、以上のような意見を表明し、陳情の趣旨採択に反対しました。

### 東山運動公園競技場改修

### 米子市議会が趣旨採択

48議案可決

米子市議会は3月定例会最終日の25日、市が開会日に提出した39議案と、同日に追加した2009年度一般会計補正予算案など4議案、意見書提出など議員発議による5議案の計48議案を原案通り可決し、閉会した。

同補正予算案は約1億円を追加。補正後の総額は約56.9億5500万円となった。

昨年9月に市議会に提出された、同市内でJリーグの試合開催に必要として東山運動公園競技場改修などを求める陳情の採決も行われ、出席議員28人中15人の賛成で趣旨採択された。同陳情には2万5510人の署名が寄せられていた。

採決の前、同陳情を審議してきた建設環境委員会の委員長による「趣旨採択」の報告に、中川健

作議員が、閉会中の継続審査を求める動議を提出。市は競技場改修費を約20億円としているが、米子市には小中学校整備や流通業務団地の健全化など他の課題も多く、厳しい市財政の中で、慎重な判断が求められることなどを訴えた。動議は賛成13人で否決された。

このほか、大海崎堤防の開削を求める陳情も、賛成多数で採択された。

2010年3月26日  
山陰中央新報

議員報酬会計報告 (2010年1~3月)	
(収 入)	
前月からの繰越	316,207
報酬	1,320,000
(44万円×3ヶ月)	
合 計	1,636,207
(支 出)	
議員共済掛金	211,200
所得税	41,310
住民税(4期)	82,000
国保料	101,500
かわらばん印刷代	20,066
かわらばん送料	141,126
資料代	52,600
活動費(事務所維持費等)	246,630
中川生活費	750,000
(25万円×3ヶ月)	
次月繰越金	-10,225
合 計	1,636,207

## 中海の再生に全力で取り組みます

# 開削陳情を採択

### 米子市議会中海特別委

米子市議会の中海開削と主張。鳥取県が題等調査特別委員会 昨年末、島根県に条件を付けて大橋川(松江(中川健作委員長)は19日、中海干拓・旧本市)改修事業の実施に同意したことについて「大海崎堤防の開削の確約がないままの同意であり、不安」だとし、同堤防の開削を引き続き求める▽森山堤防一部開削効果のモニタリング結果の公表と住民への説明の2項目を求めた。

議員からは陳情書の

前文の認識に疑念や異議も示され、「米子市は既に陳情2項目の立場で主張、行動している」と1人は不採択を主張したが、「2項目の内容自体は考えが一致する」と5人が採択することに賛成した。

2010年3月20日  
日本海新聞



## 3月議会での、主な陳情に対する賛否一覧

市民が各議員の考え方を知る上で、議案や陳情に対する賛否をわかるようにすることは当然のことです。しかし、米子市議会だよりにより各議員の賛否一覧を掲載することに反対する議員が多く、いまだに実現していません。開かれた議会を実現するために、議会のインターネット中継、議会と市民との意見交換会の開催、議会だよりへの賛否一覧掲載などをこれからも働きかけます。

(○は賛成、×は反対)

会派	氏名	①	②	③	④	⑤	⑥	会派	氏名	①	②	③	④	⑤	⑥	会派	氏名	①	②	③	④	⑤	⑥
新風	岩崎 康朗	○	○	×	×	×	○	新風	渡辺 照夫	○	○	×	×	×	○	公明党	安田 篤	○	○	×	×	×	×
"	内田 隆嗣	○	○	×	×	×	○	自民クラブ	尾沢 三夫	○	○	×	×	×	○	未 来	伊藤ひろえ	×	×	○	○	×	○
"	竹内 英二	欠 席						"	中本 実夫	×	○	×	×	×	○	"	門脇 邦子	×	×	○	○	×	○
"	谷本 栄	○	○	×	×	×	○	"	藤尾 信之	×	○	×	×	×	○	"	森 雅幹	×	×	○	○	×	○
"	中田 利幸	○	○	×	×	×	○	"	松井 義夫	×	○	×	×	×	○	"	中川 健作	×	×	○	○	×	○
"	中村 昌哲	議 長						"	宮田 誠	×	○	×	×	×	○	共産党	岡村 英治	×	○	○	○	○	○
"	野坂 道明	○	○	×	×	×	○	"	矢倉 強	×	○	×	×	×	○	"	松本 松子	×	○	○	○	○	○
"	松田 正	○	○	×	×	×	○	公明党	笠谷 悦子	○	○	×	×	×	×	"	石橋 佳子	×	○	○	○	○	○
"	吉岡 知巳	○	○	×	×	×	○	"	原 紀子	○	○	×	×	×	×	一院クラブ	遠藤 通	×	○	×	×	×	○
"	渡辺 穰爾	○	○	×	×	×	○	"	安木 達哉	○	○	×	×	×	×	維 新	三嶋 秀文	○	○	×	×	×	○

- ① 東山運動公園競技場改修及びその周辺の施設・環境を改善する陳情 (15:13 で趣旨採択)
- ② 国土交通省の事務所・出張所の存続を求める意見書の採択を求める陳情 (24:4 で採択) (※1)
- ③ 米子空港の米軍との共用基地化撤回と米軍の夜間離着陸訓練に反対することを求める陳情 (7:21 で不採択)
- ④ 米子市立保育所の民営化計画を中止し、保育所の条件整備を求める陳情 (7:21 で不採択)
- ⑤ 後期高齢者医療制度の即時廃止に関する陳情 (3:25 で不採択) (※2)
- ⑥ 大海崎堤防を開削し、中海の再生を求める陳情 (24:4 で採択)

(※1) 国土交通省の事務所・出張所の存続を求める陳情は、地方への権限委譲の観点から見直しが求められていること、出先機関の存在が大橋川改修などの無駄な公共事業を維持する温床になっていること、などの理由から反対しました。

(※2) 後期高齢者医療制度の即時廃止の陳情は、政府も廃止方針を明確にしていること、即時廃止は現場の混乱を招きある程度の時間が必要であることから、反対しました。

なお、議員定数削減を求める陳情は、市民自治制度の中で議会はどうあるべきかについてさらに議論が必要という理由で、全員一致で継続審査となりました。議会改選のために廃案になりますが、議会基本条例、住民投票制度などとともに、改選後に真剣な議論が必要です。

# つくろう！未来に続くまち

## 1、市民の力を活かすまち

米子市の主権者は市民です。男女共同参画社会を実現し、市民の力がまちづくりに活かされるような仕組みをつくりましょう。



- 重要なことは市民自らが決める住民投票制度をつくる。
- 議会への市民参加(市民との意見交換会、インターネット中継など)をめざす。
- 市政の課題ごとに、関心のある市民は誰でも参加して意見が言える場をつくる。



## 2、人を大切にするまち

中海架橋(350億円)、道路新設(5500億円)、米子駅南北一体化(60億円)などのハコモノ行政は見直し、教育・文化・福祉・環境などを大切にするまちをつくりましょう。

- 高齢者や障がい者の不安に責任を持って向き合い、解決する窓口を設置する。
- 子育て世代の意見を聞く場をつくり、安心して子育てができる環境を整備する。
- 市民参加による事業仕分けを実施してムダを省き、人づくり(教育)に投資する。

## 3、明日につなぐまち

地元の商品を地元のお店で買い、地元にお金を回し、地域経済を元気にしましょう。第1次産業(農林水産)を育て、持続的な産業振興を進めましょう。子孫のために環境を守り、ゴミを減らし、自然エネルギーを活用し、循環型社会をつくりましょう。

- 堤防開削や浅場造成などの環境修復を行い、魚介類が豊かで美しい中海を取り戻す。
- 地元の有機農産物や安全な食材を使った学校給食(小・中学校)を実施する。
- 生ごみや草・枝木の堆肥化、プラスチックの再資源化を進める。
- 危険な島根原子力発電所の中止を求め、太陽光発電など自然エネルギーを推進する。

### 中川健作が 市民のみなさんといっしょに実現してきたこと

- ◆中海干拓・淡水化事業をストップ
- ◆生態系と人体に有害なマツクイ虫農薬の空中散布中止(旧米子市)
- ◆地域経済の疲弊につながる大型スーパー「イズミ」の米子出店中止
- ◆学校図書館への専任図書職員の配置
- ◆景観形成条例の制定と旧加茂川周辺のまちづくり
- ◆学校給食パンの危険な添加物や輸入レモンの使用中止
- ◆入居者の障害に応じた、市営住宅の個別設計
- ◆弱視児童への学習支援(拡大教科書の無償配布)
- ◆退職職員の外郭団体への天下り禁止
- ◆情報公開条例制定、審議会公開など開かれた市政の推進
- ◆市政提案箱、審議会委員の公募制度など、市民参画の推進
- ◆議会のテレビ中継、委員会全面公開などの議会改革

### 中川健作のプロフィール

- 1949年/山口県生まれ。父の仕事の関係で下関市、広島市で育つ。広島大学工学部入学(中退)。大学時代前半は自転車で本州・四国縦断旅行、後半は全共闘運動に参加。
- 1970年/米子市に移住。車椅子製造販売などの仕事をしながら、環境、平和、人権の市民運動に参加。
- 1987年/米子市議会議員に当選。
- 現在/市議会中海問題特別委員会委員長・NPO法人自然再生センター理事・美しい中海を守る住民会議副代表・市民団体米子市政研究会代表・社会福祉法人あしーど評議員・旧加茂川・寺町周辺のまちづくりを進める会相談役・内町自治会環境部長など。